

平成30年度 水草等対策技術開発支援事業の概要(外来水草関係)

採択者名	内容	実績および効果	今後の事業見通し、課題等
株式会社 日吉	除草剤(バスタ液剤)を用いたオオバナミズキンバイに対する枯殺法の効率化の検討および除草剤成分の無毒化にかかわる研究開発	除草剤をオオバナミズキンバイの茎に直接注入する方法で草体に及ぼす影響を調べたところ、殺草効果は高く、枯殺に必要な除草剤の量も確認できた。水中への除草剤の流出についても、茎表面への塗布方法と比べて大きく減少することも判明した。また、除草剤を分解する土壌菌を同定することができた。	植物体へ直接注入する方法は、石積護岸に入り込んだオオバナミズキンバイの防除法として期待される。また、オオバナミズキンバイの枯殺体中の除草剤成分を無毒化できれば、肥料として使用可能と考えられる。
WEF技術開発株式会社	空気中の酸素から活性酸素を生成して、オオバナミズキンバイの分解処理する装置の開発および処理粉末の農業利用実証試験の取組	30cm程度に裁断したオオバナミズキンバイを処理装置に投入し、24時間処理したところ、重量ベースでおおよそ9割程度、減量化させることができた。処理物は細胞壁が破壊されるため、再生は困難であることが確認できた。処理物の成分分析の結果から肥料として利用できることが確認できた。	処理装置は発電機とともに4tトラックで運搬可能なため、各種法規制をクリアできれば現場での処理が可能と考えられる。